

子どもたちの健やかな成長を願い供養する

～北向き地蔵と地蔵盆～

五個荘五位田町は、人口485人、178世帯で、高齢化率約13.1%の自治会である。8月23日に開催される地蔵盆では、本来は動かさないお地蔵様を、子ども達が五位田町公会堂に運んで催す。子どもの数が増えたため、公会堂前の広場に組んだ館に鎮座するお地蔵様を、五位田町の子ども達の健やかな成長を願い供養している。

1. 親地蔵と北向き地蔵

五個荘五位田町（以下、五位田町）は、毎月1日と16日または22日の月2回、旧の在所の住民が持ち回りで「親地蔵」と「北向き地蔵」にお参りをする。

白山神社には毎月1日にお神酒を供え、「北向き地蔵」には、月2回のお参りの際にお茶とお福さん（御飯）を供える。

「親地蔵」は、かつて、五位田町の集会所に祀られていた五位田町の守護神であった。200年ほど前に、西照寺が五位田の財閥の方によって、今の地に移ったことにより西照寺に移されたという。

「北向き地蔵」は、五位田町に隣接する宮荘町の「菓道 富来郁」の店舗の隣の地蔵堂に祀



白山神社

られている二体のお地蔵様である。お地蔵様が北向きにいらっしゃるので、「北向き地蔵」と呼ばれている。地蔵堂があるのは宮荘町になるが、五位田町のお地蔵様である。五位田町で亡くなった人の棺を火葬場に見送る、「見送り」地蔵であったという。

そして、お盆にご先祖様や故人の靈魂を浄土から迎え、供養して送り出した後、地蔵盆を迎える。

以前は、地蔵盆を8月15日に「北向き地蔵」で、8月23日に「親地蔵」で行っていた。子ども達にとっては、お菓子がもらえる楽しみのイベントの一つでもある。

地蔵盆のイベントで、「北向き地蔵」まで「肝試し」をしていたが、男の子が女の子をわざと脅かすので、しばしば喧嘩となつた。

「そんなに喧嘩をするなら、男の子と女の子のお地蔵様を分ける」と、「北向き地蔵」は主



西照寺



子安地蔵と梅本地蔵

に女の子のお地蔵様となった。男の子のお地蔵さまは、西照寺に祀られている子安地蔵と梅本地蔵の二体のお地蔵様となった。

そんなことがあり、男の子と女の子のお地蔵さまは別々になったのだが、20年ほど前からは、8月23日に「親地蔵」と「北向き地蔵」のそれぞれの地蔵盆の行事を催している。

2. 「北向き地蔵」を公会堂に運ぶ

本来、お地蔵様は動かさないが、五位田町の地蔵盆の日は特別である。「北向き地蔵」を五位田町公会堂に子どもたちが運んでくる。そして、お地蔵様に前掛けをし、お地蔵様を真ん中に、喧嘩をしないように男の子と女の子の部屋を分けて地蔵盆の行事をした。

しかし、徐々に子ど�数が減ってきた。

「子どもが少なくなってきて、もう地蔵盆はできんなあと思っていたら、新しい団地ができて子どもが増えました」と山中次男さんは話す。山中さんは、五位田町の伝統文化や歴史を、自治会長に伝えている。

五位田町では、26年ほど前から宅地開発が



五個荘五位田町公会堂



北向き地蔵尊が祀られる地蔵堂

すすみ、自治会の組数も3組から11組に増えた。ここ3~4年で新興住宅から自治会長が選ばれるようになった。

自治会長の辻要さんは「新興住宅の方々は新しいことを考えて下さるし、自治会長を包み込むように皆さんが動いて下さいます」と話す。地蔵盆も、公会堂に子どもが入り切れなくなったので、公会堂前の広場に北向き地蔵が鎮座する館を組んで催す。

地蔵盆は、五位田町の晩夏の風物詩である。

3. 地蔵様に手を合わせ

五位田の夏のもう一つの風物詩が、「納涼祭」である。しかし、コロナ禍で納涼祭は中止になった。子ども会もコロナ禍で集まることができなかった。

山中さんは地蔵盆をやるかどうか悩んでいたという。すると、自治会長をはじめ周囲の方々が「山中さん、やりいな」と言ってくださった。山中さんは、「北向き地蔵」を自分で運び、地蔵盆の形を整えた。

五位田公会堂に子どもたちが顔を見せた。

山中さんによると、高学年の子どもは「北向き地蔵」の前を通ると手を合わせるという。その姿を低学年の子どもも見て真似て手を合わせるという。

五位田町のお地蔵様は、コロナ禍でも、コロナ禍だからこそ微笑んで、五位田町の人たち、子ども達を守護してくださっている。